

主 題：教会の建て方9

聖書箇所：エペソ人への手紙 4章16節

パウロがローマの牢獄の中で「エペソ人への手紙」を書いた5年ほど前に、パウロはエペソの教会の長老たちとミレトという町で会いました。パウロは第三次宣教旅行の終わりにエルサレムへと向かって行くその途上にありました。これまでの旅の中で、パウロは預言者たちから聖霊の働きを通して、エルサレムにおいて様々な困難が待っていることを度々聞きました。そして、もしかするとこのときがエペソの長老たちと会う最後のときかもしれないと思いながら、パウロはミレトにエペソ教会の長老たちを呼び集めたのです。そこでパウロは彼らに警告と励ましのことばを与えました。使徒の働き20：28-32にそのことが具体的に記されています。「あなたがたは自分自身と群れの全体とに気を配りなさい。聖霊は、神がご自身の血をもって買い取られた神の教会を牧させるために、あなたがたを群れの監督にお立てになったのです。：29 私が出発したあと、狂暴な狼があなたがたの中には入り込んで来て、群れを荒らし回ることを、私は知っています。：30 あなたがた自身の中からも、いろいろな曲がったことを語って、弟子たちを自分のほうに引き込もうとする者たちが起こるでしょう。：31 ですから、目をさましていなさい。私が三年の間、夜も昼も、涙とともにあなたがたひとりひとりを訓戒し続けて来たことを、思い出してください。：32 いま私は、あなたがたを神とその恵みのみことばとにゆだねます。みことばは、あなたがたを育成し、すべての聖なるものとされた人々の中にあって御国を継がせることができるのです。」

パウロはこのエペソの教会に、多くの困難がやって来ることを知っていました。それゆえに、パウロはエペソの長老たちを励まし、また、警告を与えたのです。そして、彼らを神とそのみことばとにゆだねました。パウロは教会の長老たちが、神の群れである教会を神のみことばを通して導き、彼らが成長し守られることを願っていました。そうすることによって、彼らが迫り来ている様々な危険から守られるようにと。エペソ人への手紙4章でこれまで見て来たように、パウロがここで長老たちに伝えたことと非常に似た真理を教会のみな宛てて話をして来ました。パウロはそこで長老たち、また、神から賜物を与えられた者たちをキリストから教会に与えられて、彼らは聖徒の成長のために彼らが奉仕の働きをして行くことができるように、整える働きをするために与えられていることを教えました。彼らのそのみことばの働きを通して、教会員一人ひとりが、いや、教会がキリストに似たものへと変わって行くように、そのことが定められていることを告げました。そして、教会に与えられている神の設計図がそのまま教会に適用され、教会が建て上げられて行くときに、そこには三つの結果が必ず起こることをパウロは告げていました。14節から、その結果について語っています。

14節では、このように教会が設計図に沿って建て上げられて行くときに、すべてのクリスチャンが霊的な幼子としてそこに留まり続けることをしないで、成熟し成長し、様々な敵からの攻撃に耐えることができる、波にもまれ沈みそうになるのではなく、あらゆる教えの風に吹き回されるのでもなく、真理に沿ってしっかり生きて行くことができるようになることを教えました。幼子であり続けることはいないだけでなく、15節では、彼らはキリストに向かって確かに成長して行くことを教えました。一人ひとりのクリスチャンが、あらゆる生涯の選択において、行動において、思いにおいてことばにおいて、キリストを中心としてキリストをしっかり現わす者へと行って行くのです。これら二つの結果は、個人個人のクリスチャンに向けて起こって来ること、一人ひとりの信徒が経験して行くものであるとパウロは言ったのです。今朝と来週の日曜日は、私たちは三番目の結果について見て行きます。神の設計図に沿って教会が建て上げられて行くときに、必ず起こる結果の三番目、最後のところを見て行きます。これは個人個人のクリスチャンに起こって来ることと言うよりも、むしろ、教会全体に起こることであるとパウロは記します。また、16節でパウロが語っていることは、これまで私たちが見て来た11節からのことばのまとめであるだけでなく、実は、4章の初めからパウロが語り始めた大きな文脈の中でのまとめでもあります。来週はこの大きな文脈についても少し考える時間を持ちますが、今朝、私たちは16節に焦点を当てたいと思います。私たちはここでパウロが語ろうとしている中心的な事柄を見始めます。そして、ここに記されていることは、私たちの教会にとっても重要な事柄です。この節は、私たちに神の計画に照らし合わせたとき、神の設計図に照らし合わせたときに、私たちの教会がどのような教会であるのかを私たちに吟味させます。私たちはそれゆえに、ここに記されていることをもって自分たちを吟味しなければいけません。この教会を諮らなければいけません。そして、もし神の前に正しく教会として建て上げられているなら、このような結果を私たちの教会の中に見なければいけないということをよく覚えておかなければいけません。

いつものようにみことばを読みましょう。エペソ4：11-16「こうして、キリストご自身が、ある人

を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。：12 それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、：13 ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身たけにまで達するためです。：14 それは、私たちがもはや、子どもではなくて、人の悪巧みや、人を欺く悪賢い策略により、教えの風に吹き回されたり、波にもてあそばれたりすることがなく、：15 むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるためなのです。：16 キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分はその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。」

この11-16節のアウトラインを記します。

《教会の建て方 エペソ4：11-16》

- I. キリストは賜物を受けた者たちを教会に与えた 11節
 - A. キリストは使徒たちを教会に与えた
 - B. キリストは預言者たちを教会に与えた
 - C. キリストは伝道者たちを教会に与えた
 - D. キリストは牧師・教師たちを教会に与えた
- II. キリストは一つの目的をもって彼らを教会に与えた 12節
 - A. 目的とは聖徒の完成である
 - B. 目的の達成には…
 - 1. 聖徒が奉仕の働きをすることが必要である
 - 2. 教会が成熟したものになることが必要である
- III. キリストは目指すべき所を明確にして彼らを教会に与えた 13節
 - A. 目指すのは信仰の一致である
 - B. 目指すのはキリストに関する知識の一致である
 - C. 目指すのは聖徒の完成である
- IV. キリストは予期すべき結果を明確にして彼らを教会に与えた 14-16節
 - A. すべての信徒は成長を遂げる 14節
 - 1. 霊的未熟に身を置き続けることは罪である
 - 2. 霊的未熟の特徴は避けなければならない
 - 3. 霊的未熟は悪魔に攻撃の機会を与える
 - B. すべての信徒はキリストに向かって成長する 15節
 - 1. 成長は信徒が望むときにのみ起こる
 - 2. 成長は聖書の真理を通してのみ起こる
 - 3. 成長は愛の中でのみ起こる
 - 4. 成長は信徒をかしらにふさわしい者にする
 - C. すべての信徒は一つとなって成長する 16節
 - 1. 成長はかしらにつながることによってもたらされる
 - 2. 成長はからだにつながるによってもたらされる
 - 3. 成長は各器官が役割を果すことによってもたらされる
 - 4. 成長は愛のうちに一致を保つときにもたらされる

先ほども言ったように、私たちは三つの結果を見て来ました。最初の結果は、「A. すべての信徒は成長を遂げる」ということでした。二番目の結果は、「B. すべての信徒はキリストに向かって成長する」でした。そして、今日、私たちが見て行くのは三番目の結果です。

C. すべての信徒は一つとなって成長する 16節

この三番目の結果を見るに当たって、私たちはこの16節を明確に正しく理解しなければいけません。そのために16節を分解します。皆さんも16節は複雑な文章になっていると思われませんか？言わんとしていることが非常に分かりにくいように見えます。なぜなら、11節から見て来て、この16節ほど訳すことが困難な箇所はないだろうと思うからです。それゆえに、この箇所を原文に倣ってパウロが言わんとしていることを分解しながら、区分しながら、一つ一つ見て行きます。そうすることによって、パウロが私たちに教えようとすることをはっきり理解し、実践して行くことができるようになるのです。ここでパウロは、単に、一人ひとりのクリスチャンが霊的に未熟な者から成長して、キリストに向かって成熟して行くだけでなく、教会全体が一致において成長して行くことを願っている、そのことが結果であると見ることができます。

先ほども少し触れたように、パウロは4章から、私たちが救われた者として、救いのすばらしさをしっかりと理解した者として、どのように生きて行くべきなのかを教えて来ました。その最初にパウロが言ったことは、私たちが召された者としてその召しにふさわしく歩むようになるということでした。そのことが実は4章から6章に至る後半部分の大きな焦点です。そして、この召しにふさわしい歩みがどのようなものなのかを具体的に説明して行く中で、パウロが一番最初に上げることが「一致」です。4：3にそのことが記されています。「平和のきずなで結ばれて御霊の一致を熱心に保ちなさい。」と。そして、この一致に関することをまとめて行くに当たって、パウロは16節でもう一度「一致」について私たちに語りかけます。分解してパウロが言っていることを細かく分かり易く考えて見ましょう。すべての信徒は一つとなって成長して行きます。そのことを伝えるに当たって、パウロが最初に記すことは、私たちがかしらであるキリストにつながるがなければならないということです。

1. 成長はかしらにつながることによってもたらされる

16節の最初には「キリストによって」ということばがあります。原文では11節から一つの文章としてつながっているのですが、16節の最初は「～から」という前置詞です。そして、その後人物を指す関係代名詞が使われています。これは「だれかからこのことが起こっている」ということを表わそうとしています。その人物は15節の最後に語られていた「かしらなるキリスト」です。つまり、パウロはここで「かしらであるキリストから」ということを最初に告げているのです。そして、このことばをもって、私たちが成長して行くに当たってのその根源がどこにあるのかを教えているのです。

私たちは前回すでに、15節でパウロが語った「キリストがかしらである」ことがどのようなことかを見ました。パウロはこの手紙の中で、「かしら」ということばをキリストに当てはめて何度か使っています。1：21-22にはこのように記されています。「すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世ばかりでなく、次に来る世においてもとなえられる、すべての名の上に高く置かれました。：22 また、神は、いっさいのものをキリストの足の下に従わせ、いっさいのものの上に立つかしらであるキリストを、教会にお与えになりました。」と、つまりパウロは、キリストがかしらであるということは、キリストがあらゆる権威に優る権威をもっておられる絶対的な主権者であり、権威者であるということを教えたのです。また、もう一箇所、5：23では「なぜなら、キリストは教会のかしらであって、ご自身がそのからだの救い主であられるように、夫は妻のかしらであるからです。」と言っています。この箇所は妻が夫に従うことの大切さを教えている箇所ですが、そこでパウロは、妻が夫に従うことと同じように、夫が妻の上にリーダーとして立っているのと同じように、キリストはかしらとして教会のリーダーとして立っていると言うのです。それゆえに、教会はキリストに従わなければならないのです。

つまり、キリストがかしらであるということは、キリストが教会の絶対的な主権者であり、教会のリーダーであり、教会の権威者であり最終決定能力をもっておられる唯一のお方であることを教えているのです。私たちはこの真理を実に明確に、黙示録1：9以降3章の終わりに至るまでに見ることができ、皆さん、よくご存じでしょう。ヨハネの前にキリストが現われて七つの教会に向けてメッセージが記されています。その箇所で、ヨハネは明らかに、キリストが教会の権威者としてすべての教会の上に立って、それぞれの教会を吟味し、それぞれの教会をさばく姿を記しています。それが権威者であり「かしら」であるキリストの姿なのです。

けれども、同時に、「かしら」であるということは教会の成長の根源がキリストにあるということ私たちに知らせます。そのことを明解にしているのが、エペソのこの箇所の並行箇所とも言えるコロサイ人への手紙2：19です。「かしらに堅く結びつくことをしません。このかしらがもとになり、からだ全体は、関節と筋によって養われ、結び合わされて、神によって成長させられるのです。」、キリストが基になって教会は成長するとパウロは言っています。かしらであるキリストが教会の成長の責任を一身に担っているのです。まさに、これはイエスご自身が弟子たちに約束されたことでもありました。マタイ16：18でこのように言われました。「ではわたしもあなたに言います。あなたはペテロです。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。」、キリストご自身がご自分の教会を建てられます。キリストだけが教会の成長をもたらす根源なのです。キリストだけが教会に成長をもたらすために何が必要なのかをはっきりと理解し、その指示を与え、その成長に必要な力を備えてくださるのです。

私たちの肉体の成長もかしらによって、具体的に言うなら、私たちの脳によってコントロールされています。私たちの肉体には、その部分の一つ一つがどのように活動し機能して行くのかを支配する脳の働きがあります。私たちのからだには末梢神経が細部に至るまで巡り回っています。それらは脳に対して様々な情報を送り、脳はそれらを受け取ります。脳は受け取った情報を分析し、最も相応しい指示をからだに与えるのです。だから、私たちがストーブに触ったとき、触った瞬間に私たちの神経が脳へ信号を送り、脳はその信号を分析して手に信号を送り返し、手を一瞬にしてストーブから離します。私たちが決断する様々な事柄、実際に行なって行く様々な事柄は、私たち自身がそれに意図的に加わって行

なうこともあります。でも、実際に、自分たちのからだを見たときに、私たちは何も決断することなく、つまり、自分の意志でこうするのだと言わないで、様々な事柄がからだの中で機能しています。内臓の多くは私たちがこうするのだと思ったから動くわけではないのです。脳がからだを司っているのです。私たちは脳の指示に従って機能しているのです。

同じように、教会のかしらであるキリストは、教会がどのように進みどのように機能して行くべきなのかを指示し、コントロールしているのです。キリストは教会に対して、それがどのように進んで行くべきなのかを、一つ一つ、みこころに沿って私たちに教えてくれるのです。いったい、どのようにして教会はキリストのからだとしてその指示を受け取っているのでしょうか？私たちは様々な状況の中で、教会がどのように進んで行くべきなのかを知ることができるのでしょうか？私たちのからだの中には淡く光輝く何キロにも及ぶ神経が走り巡っています。教会にはそれがありません。神はどのようにしてその信号を送るのでしょうか？指示を出すのでしょうか？皆さん、ご存じですか？神のみことばです。神はみことばを通して私たちに教会がどのように進んで行くべきなのか、どのように機能して行くべきなのかを教えてください。そして、私たちからだが持っている責任は、その指示を理解し、その指示に従って機能して行くことです。私たちがよく覚えておくべきことは、私たちは頭ではないということです。私たちがよく理解しておかなければいけないことは、私たちが頭ではないゆえに、私たちは教会がどのように機能し、どのように進んで行くべきかを決める決定権は持っていないということです。キリストだけがそれを持っておられるのです。私たちは「かしら」ではないのです。私たちに求められていることは、それゆえに、キリストが送られる指示に沿って正しく生きて行くことです。ちょうど、健康な人間のからだ、その細胞が脳が与える指示にいや！と否定することなく、従っているのと同じように…。

このように考えて行くとき、一つはっきりすることがあります。それは、クリスチャン、教会に属する人たちは「かしら」であるキリストに正しくつながっていなければいけないということです。そうでなければ、私たちはキリストからの信号を受け取ることができません。キリストの指示に従って生きて行くことなどできません。教会に属する人たちは、単に、教会に属している、教会の人たちとつながっているというだけでは十分ではないのです。「かしら」であるキリストとつながっていなければいけないのです。そして、このキリストが教会の「かしら」として、一人ひとりのクリスチャンの「かしら」として明確にその結合を持っていないとするなら、そこには成長はありません。ここで私たちが学ばなければいけないことは非常に重要なことです。確かに、キリストとつながることによって私たちはキリストのからだとされ、キリストのからだとされたゆえに、私たちはキリストが与えるみことばを通しての指示にしっかり従って、それに沿って生きて行くことがなければ絶対に成長しないのです。

地域の教会において、私たちは確かにかしらであるキリストにつながっていない人たちがそこに存在することを知っています。浜寺聖書教会の中に、キリストをかしらとしていない教会員がいることを私たちは知っています。それらの人たちは、自分たちがクリスチャンであるかのように行動し、クリスチャンであるかのように語り、そのように見えますが、彼らは実際には救われていません。なぜ、そのようなことを大胆にも言えるのか？皆さん、覚えておられるでしょう。イエスが山上の説教の最後に、マタイの福音書7：21-23で、最後にどのようなことが起こるのかを告げていました。「わたしに向かって、『主よ、主よ。』と言う者がみな天の御国にはいるのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行なう者がはいるのです。：22 その日には、大ぜいの者がわたしに言うでしょう、『主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言をし、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって奇蹟をたくさん行なったではありませんか。』：23 しかし、その時、わたしは彼らにこう宣告します。『わたしはあなたがたを全然知らない。不法をなす者ども。わたしから離れて行け。』」、よく考えてください。「『主よ、主よ。』と言う者がみな天の御国にはいるのではなく、」、これがポイントです。これらの人たちはどれ位の数だったのでしょうか？22節には「その日には、大ぜいの者が」、『主よ、主よ。』と言うとあります。残念ながら、聖書はこのことを警告します。「私は救われている」という人がすべて救われているのではない、「私は信じている」という人がすべて本物の信仰をもっているのではないと言います。思い出してください。パウロの働き仲間であった者たちでさえ、信仰を捨て教会から離れて行きました。だから、私たちは吟味しなければいけないのです。だから、新約聖書は何度も「あなたの信仰を吟味しなさい」と言うのです。あなたが間違いなくキリストとつながっていること、そのことを確認しなさいと言います。あなたがかしらであるキリストの指示に聞き従い、キリストの命令に沿って生きている、そのような歩みをしているかどうか確認しなさいと。皆さん、つながっていますか？かしらであるキリストと間違いなくつながっていますか？その指示に喜びをもって聞き従おうとしていますか？

また、多くの教会や、多くのクリスチャンたちは、まるで自分たちの創造力やすばらしい計画によって教会を運営して行くことができると考えます。ある人たちは、この世の成功を収めた様々な企業のモデルを使って、それを教会に適用して、このように教会を運営して行くなら教会は栄えて行くと考えま

す。ある人たちは、様々なマーケティングの手法を使って市場調査を行なうことによって、この周辺に住む人たちはどのようなことに関心があるのかをよく理解するなら、それを提供することによって教会に多くの人が集まって、教会が成長して行くなどと考えます。また、ある人たちは世の中の一般的な常識に沿って教会を運営しようとします。また、ある人たちは、それぞれのときにうまく行っていることをやりさえすれば大丈夫と言って、流行を追いかけ続けます。また、ある人たちは、人数的な成長を追い求めるがゆえに、クリスチャンであろうとなかろうと関係なく、とにかく人を集めようと努力します。けれども、皆さん、どのように教会を運営して行くのか、どのように教会を建て上げて行くのか、その設計図は一つしかありません。それは、このみことばによって建て上げる設計図です。個人においても、教会全体を通して、教会に属するクリスチャンはかしらであるキリストに確かに結び付き、そして、かしらであるキリストの指示に従って生きようとしなければいけないのです。それがなければそこには成長はいっさいないことをパウロは私たちに教えるのです。

成長はかしらにつながることによってもたらされます。でも、かしらにつながっているだけではだめなのです。それがパウロが二番目に私たちに教えていることです。

2. 成長はからだにつながるによってもたらされる

同時に、私たちは「からだ」につながっていなければいけません。それが、この16節を分解して行くときに、私たちがはっきり見て取ることができることの二番目です。先に言った通り、16節は複雑な文章ですが、ここに書かれていることの余計なものをすべて取り除いて、言わんとしている中心的な事柄だけに限定すると、パウロはこんなことを言っています。「からだ全体はからだの成長をもたらす」、これがこの節でパウロが一番伝えたかったことです。これはどんな意味でしょう？キリストは私たちに對して成長をもたらそうとするときに、個人個人が成長して行くのではなく、クリスチャン全体が、キリストのからだ全体が成長することを願って、その成長を与えようとしているということです。私たちの肉体も同じです。私たちの肉体の一部がからだから切り離されているなら、そこには成長はありません。それと同じように、私たちクリスチャンはからだ全体に属していなければ、成長することはないと言うのです。ここで使われている動詞は非常に興味深い形をしています。この動詞は私たちに、主語が動詞のもっている動作に深く関わっていることを告げています。つまり、からだはからだの成長に直接的に関わりをもっているということです。皆さんも私も、クリスチャンとして成長して行くためには、お互いが必要なのです。お互いが成長させ合うことによって、クリスチャン、教会は初めて成長して行くことができるのでパウロは私たちに教えるのです。それがパウロがここで言わんとしたことでした。私たちがたとえだれであったとしても、どのような人物であっても、どんなに優れたクリスチャンであっても、私たちがキリストのからだにつながっていることがなければ、そこには成長はないと言うのです。

キリストのからだは一つのからだです。そして、神はクリスチャン一人ひとりがそのからだのほかの部分とは別に、個別に、それぞれの場所で成長するには定めていません。もし、皆さんが自らを教会から切り離すなら、皆さんは自分自身の靈的いのちを危険をさらしているのです。皆さんは教会から切り離された状態で、教会に属していない、からだにつながっていない状態で、自分たちが靈的に成長することや、靈的に良い状態を保つことができるなどと思ってはいけません。なぜなら、皆さんの靈的生涯は、かしらであるキリストにつながっていることと、そのキリストのからだにつながっていることに掛かっているからです。このことをよく理解するなら、私たちは神がなぜこの地上に地域教会を建てられたのかが分かります。もし、私たちが救われることによって、靈的に見えない教会と呼ばれるキリストのからだに属することだけで十分であるとするなら、私たちに教会は要りません。それぞれのところでそれぞれが神につながって信仰生活を全うすればそれでいいではないですか？でも、神は私たちに地域の教会を与えくださったのです。神はこの地に浜寺聖書教会を備えてくださったのです。それは私たちがこの地上での教会につながって、その中でからだ全体がからだの成長をもたらすことを為すように、神が定めておられるのです。私たちは一人ひとりで成長することはできないのです。自分だけで靈的成長を遂げることはできないのです。お互いが必要なのです。お互いが成長をもたらさなければいけないのです。

これは、単に、私たちが教会に来ていますということではありません。パウロはここで「からだ全体がからだの成長をもたらす」と言いました。彼は「からだ全体がからだの部分の成長をもたらす」とは言わなかったのです。このことは非常に重要です。来週、このことについてもう少し詳しく説明しますが、このことをよく覚えてください。私たちの主が成長を語る時、パウロがここで成長を告げるときに問題にされていることは、私たちが個人個人で成長して行くことを言っているではありません。ここでの焦点は、からだ全体の成長なのです。確かに、それぞれの部分で成長しなければ全体的に成長しません。だから、一人ひとり成長しなければいけないのですが、もし、からだの他の部分が成長してい

ないのに一部分だけが成長しているなら、その状態は健康でしょうか？ 同じように、教会において神が私たちに求めている成長は、だれかが個人的に急激に成長すること以上に、私たちみながいっしょに主に似た者へと変わって行くことです。

宗教改革者の一人であるジョン・カルヴィンはこのようなことを記しています。「からだ全体にふさわしい成長ではない成長は有益なものではない。自分だけの個別の成長を願う者は、間違っただけの考えをもっている。」と。皆さん、コリントの教会を思い出してください。コリントの教会は多くの問題をもっていました。それは、コリント教会の人たちが自分たちに与えられていた霊的な賜物を、自分自身の益のためにだけ用いていたことです。パウロはIコリント14章で、異言を語るよりも預言を語ることを勧めています。なぜでしょう？異言は個人の徳を高めるかもしれませんが、預言は全体の徳を高めるからです。コリントの問題はまさにここにあったのです。人々が自分が！自分が！と言って、自分の成長だけを追い求めて、他の人のことをいっさい無視して、利己的に自分勝手な働きをどんどんして行ったのです。それは教会の求める姿ではないとパウロは言います。そのことがここで教えられています。からだ全体がからだの成長をもたらすのです。

聖書の中には「互いに～しなさい」という命令がたくさん出て来ます。「互いに愛し合いなさい、互いに教え合いなさい、互いに戒め合いなさい、」と。皆さん、これらは一人ですらできるのでしょうか？私たちに教会が必要です。からだが必要なのです。私たちが成長して行くためには、私たちがからだにつながっていないといけない、その責任があるのです。皆さん、ここにも私たちがよく理解して学ばなければならぬ大切な教えがあります。確かに、皆さんは一人ひとり成長を望んでおられるでしょう。それはすばらしいことです。けれども、このことをよく考えてください。皆さんが願っているその霊的成長は、皆さんの周りにいる人たちを「私も成長したい」と励ますものですか？それとも、むしろそれを妨げるものですか？皆さんが願っている個人的な霊的成長は他の人たちに対する大きな励ましになっていきますか？それとも、他の人のつまづきになっていませんか？ときに、自分が霊的に成長していると考えて熱心に働きをすることはすばらしいことですが、同時に、批判的になり、人々をさばき易くなり、「私はこんなにしていないのにあの人たちは何もしていない」というようなことを言って、自分の霊的成長を人々のつまづきに用いているような人が、教会には度々起こって来ます。皆さんの霊的成長は周りの人たちを励まし促すものですか？それともそれを妨げるものですか？

皆さんは他の人たちに成長する機会を備えていますか？祈りの課題を上げることによって、人々がいっしょに祈って神を信頼することをより多く学ぶことができるように、皆さんは自分の生涯をオープンにしていますか？それとも、人々に何も話さないで、祈ってもらうこともしないで、その成長の機会を妨げていませんか？皆さんは他の人たちが主に仕えることの喜びを多くもつことができるように、自分一人であらゆることをするのではなく、いろいろな人たちを巻き込んでいっしょに成長しようと働きかけていますか？それとも、私がやればよいではないかと言って、全部を自分のものにしていませんか？皆さんは、自分が主のために何ができるかということに余りにも没頭しすぎて、他の人たちが何もできないようにしていませんか？現代社会の利己的な人々の中であって、教会もだんだんと利己的なものになって来ました。人々は自分がしたいときに自分のしたいことをして、自分がしたくないときにはいっさいそれに関わりませんという態度をもって教会に来るようになりました。すべてのことがうまく行って、あらゆるものが滑らかで、やっていることから良い思いを自分たちにもたらせている間は喜んで教会の働きに加わるのですが、困難が来て問題が起こって様々なことが複雑になると、すぐにすべてを投げ出して「私はやりたくない」と逃げます。この教会でも残念ながらそのようなことが起こります。

来週はこのことについてもう少し詳しく見て行きます。皆さん、よく覚えておいてください。教会につながるということは、単に、日曜日に教会に来ることではありません。教会につながっているというのは、皆さんが浜寺聖書教会の教会員であるということにつながっているのではないのです。教会につながっているというのは、それは皆さんが神が与えてくださった皆さんに独特の働き、役割を、神が与えてくださった賜物を生かして、皆さんが全うして行くことによって初めてつながっていると言えるのです。皆さんが救われたとき、皆さんには神が特別に備えてくださった霊的な賜物が与えられています。聖書はそのことを約束しています。また、神は皆さんに生まれながらに様々な才能をもって、さまざまな能力をもって、皆さんを独特に造ってくださいました。その神は皆さんをこの教会に集めたのです。なぜですか？皆さんの賜物がこの教会に必要だからです。皆さんの能力がこの教会に必要だからです。皆さんがもしその賜物を生かすことなく、その能力を用いてこの教会全体の成長のために働きをしないなら、皆さんはこの教会の成長を妨げているのです。皆さんは周りのクリスチャンの成長を妨げています。皆さんは自分自身の成長を妨げています。

もし、かしらであるキリストに正しくつながっているなら、同様に、キリストのからだである教会につながっているなら、皆さんは教会の成長をもたらす役割を担っているのです。自分自身の個人的な願

望や、自分の計画を達成することよりも、神が与えてくださっているからだの成長をもたらすことの方がはるかに、私たちが達成しなければいけない重要な責任なのです。皆さんは自分の思うままに教会に来て帰ることはいけないのです。来たいときに来て、来たくないときには来ないというのは、クリスチャンの本来の姿ではないのです。私たちはみなからだの一部として、からだ全体がからだの成長をもたらすように努め励まなければいけないのです。そうすることによって、私たちは初めて、個人個人が、また、からだ全体がキリストに似た者へと変わって行くのです。

2001年の夏、フロリダの沖合いで8歳の男の子が泳いでいたところ、突然、サメがその少年を襲いました。少年の腕は最初の攻撃によって食いちぎられました。傍で見ていたおじさんが、何とかそのサメと格闘し、サメを海岸沿いまで引き寄せて、そして、周辺にいた警備員がサメに三発の銃弾を打ち込んで、ようやくサメを殺し、その顎を緩めました。非常に鋭い歯を持ったサメは少年の右肩の下、約15cmのところから下の部分を見事に切断し、その腕を口にくわえていたのです。少年は大急ぎで救急車で運ばれ病院へ連れて行かれました。同時に、サメの口から切り裂かれた腕を取って、少年といっしょに病院へ運んだのです。手術は約12時間に及びました。細やかな繊細な手術の結果、この少年の腕は元のようにからだにつながられました。皆さん、想像できますか？もし、少年の腕がすぐに接合されることがなければ、その腕はあつという間に死に絶えてしまったでしょう。けれども、神のすばらしい恵みと、人々のすばらしい努力をもって、この少年の腕は、神経の細かい部分に至るまで結合され、元のようにくっついたのです。少年が成長するとその腕にも栄養が行き届き、少年と同じように成長して行きます。

皆さん、私たちはこのからだにつながられるようなすばらしい者ではありませんでした。本来なら、このからだにつながっているべきではないのです。でも、神はすばらしい恵みのゆえに、あわれみのゆえに、私たちのような者をそのからだにつながってくださったのです。もし、本当にそうなら、私たちはどうしてこのからだから切り離されたいと思うのでしょうか？どうして、このからだに属していたくないなどと思うのでしょうか？どうして、私は一人の方が楽だ、その方がいいなどと言うのでしょうか？また、こんなすばらしいからだに神が加えてくださったとするなら、どうして、そのからだの中で害をもたらすことをするのでしょうか？どうして、私たちは自分だけのことを考えていればいいと言って、周りに害をもたらしても何とも思わないで生きて行くことができるのでしょうか？

皆さん、私たちはこのからだに加えられたのです。このからだに神は私たちに備えられた役割を全うするように求めておられます。浜寺聖書教会、この地上にあるありとあらゆる教会は、その教会に属する一つ一つの部分が必要です。からだ全体がからだの成長をもたらすのです。からだ全体がかしらであるキリストの命令に耳を傾け、それをしっかりと理解し、「はい、私はそれをその通り行なって行きます。」と言い続けるときに、初めて、教会は成長して行くのです。そのような教会でありたくないですか？神の前に成長を遂げた教会、私たち一人ひとりがその成長のカギを握っているのです。